

かながわ子ども教室

ニ

ュ

ー

ス

第83号

<かながわ子ども教室> (小島啓三郎)

2年間「かながわ子ども教室」の予算委員長を務められた森英敏さんが体調の関係で退かれ、私、小島が6月1日より後任を務めさせていただいております。よろしくご指導ください。

新年度に入ってから、一向にコロナは終息する気配がなく、当初予定されていた教室は中止・延期が相次ぎました。われわれ「子ども教室」としても3密をさけ、子どもたちにうつさない、われわれもうつらないための開催条件を定め、その範囲で開催できる教室を模索してまいりました。

森英敏さんが地区担当をされている鎌倉の「放課後かまくらっ子」で市の青少年課が主導したりリモート教室（講師と生徒が離れた場所でZOOMによるテレビ会議システムを利用）の検討会に7月に参加しました。この結果、本年度第1回の教室が「放課後かまくらっ子ふじづか」で勝浦さんの自宅とつないだ「まわれ！浮沈子」の教室として9月16日に実施することができました（この様子は勝浦さんから配信されたビデオ、また、ホームページの動画による教室紹介にアップされております）。初回としては大きなトラブルもなく、先方の指導員から極めて高い評価が得られましたが、子どもたちの反応がつかみにくいというZOOM教室ならではの問題点が浮き彫りになり、今後、どのように対処していくか詰めていく必要があります。ZOOM教室は10月に「私たちと水」、11月に「ひかりと色」の開催が決まっています。

また、9月23日には本年度「かながわ子ども教室」の第2回目の教室が、鶴ヶ峰わんぱくハウスで生徒参加人数を絞った形で、金子さんの「私たちのからだ」教室として開催されました。

今後はコロナの状況を注視しながら、生徒数、そしてサポーター数を絞った形での対面型のリアルな教室、それが難しいときはZOOMを活用したりリモート教室を提案し、少しでも多くの活動がリスクの少ない形で実施できるよう努めてまいります。

また、9月24日の実行委員会にはZOOMを活用した新しい教室（錯視教室）も提案され承認されました。教室の内容も生徒にとって魅力があり、また、コロナ後にも（重複開催などでサポーターが不足する場合に）有効であることから、ぜひ、実施につなげていただきたいと考えております。